

2026 年度

大学院文学研究科博士課程前期 2 年の課程入学試験

(夏期・一般選抜) 問題

専門科目 美学・西洋美術史 専攻分野

出題意図

問 1 全体の出題意図

これらの概念ないし用語は、いずれも西洋美術史、美学、東洋・日本美術史の 3 領域に関わる基本的な知識であるとともに、文学研究科で教育に携わっている関連分野の教員が目下の主なテーマないし関心事として注目して展開しているキーワードである。

文学研究科の総合人間学専攻では、は美学・西洋美術史専攻分野および東洋・日本美術史専攻分野が一体となって「芸術人間学講座」を制度的に形成し、学生教育および研究も連携している。このような研究および教育環境を踏まえて、博士課程入学希望者には、先述の 3 領域について十分な知識を求めている。各教員の情報はウェブサイトで公開されており、またそれぞれの研究成果も随時、出版物ないしデジタルデータで公表されている。受験生はそれらの内容を調査し、各教員が目下のところどのような関心を抱いているかを探究することが十分に可能である。

以下、各問についての出題意図の解説ないし解答例そのものを挙げる。

(1) フレスコ

造形的芸術の素材および技法としての起源、歴史および地理的展開、美術史および文化史上の意義を正確に述べることを期待している。加えて、何らかの時代や地域において具体的な例を挙げ、その歴史的意義についても述べることが求められる。

(2) 美術アカデミー

古代から近代にかけての西洋美術史において、美術家および美術制作の社会的地位をめぐる問題はきわめて本質的かつ重要である。古代のアカデメイアに理想的起源を有し、資料的には 1563 年のフィレンツェにおける最初のアカデミーがあること、いわゆる古典主義の様式と歴史画を最上に置く美術のヒエラルキー化、さらにサロン（公募展）のシステムの確立といった要点に触れることが求められる。

(3) プラトン主義

プラトン主義は芸術の歴史的展開においてきわめて重要な意義を有している。とくに美学史においては、プラトンおよびプラトン主義による美と愛をめぐる思想、アイデアをめぐる思想、さらには実体的世界と仮象的世界との対置的分析といった中心的議論は、とくに 15 世紀フィレンツェにおけるプラトン・アカデミーの再構築に典型的なように、近世イタリア美術および詩学の中核を形成していった。これらの流れについて、具体的な著述家や重要な著作に触れつつ論じることが求められる。

(4) 崇高

古代においてロンギノスが提唱した崇高の概念（靈魂の活性化ないし上昇を示唆する「高さ」としての価値）は、のちにバークによって再発見され、「驚異」ないし「危機的なるものを前にしたさいの平穩」のごとき感性的認識として位置づけられた。さらにカント『判断力批判』における理論化、同時代の風景画において顕在化した「ピクチャレスク」などにも触れることができよう。

（5）ラオコーン

解答例1：トロイア戦争終盤、ギリシア側が仕掛けた木馬の罠を見破った神官ラオコーンは、神が差し向けた二匹の大蛇に襲われて息子とともに落命する。現在ヴァチカン博物館所蔵の《ラオコーン群像》は、ラオコーンと息子二人が蛇に襲われる苦悶の表情と身振りを劇的に表しており、ヘレニズム末期彫刻の傑作といえる。

解答例2：《ラオコーン》は、1506年に発見された大理石彫刻で、プリニウスが『博物誌』の中で「他のどんな作品にも勝る」とまで称えている。プリニウスによれば、ラオコーン群像の作者はロドス人のハゲサンドロス、ポリュドロス、アタノドロスの三人である。同じ三名は、スペルロンガの洞窟で発見された《スキュラ群像》にも署名している。

（6）ローマン・コピー

解答例1：紀元前100年頃、彫刻の精密な大理石製コピーを制作する技法が確立し、ローマ時代にはギリシアの過去の有名彫刻作品、とりわけクラシック時代の彫刻のコピーが大量に生産された。ブロンズ製のギリシア彫刻はほとんどが溶かされて残っていないため、ローマン・コピーは失われたギリシア彫刻を復元するうえで重要な手がかりである。

解答例2：ローマ時代に制作された彫刻の中には、ギリシアの古い彫刻の正確な複製や、ギリシア彫刻のプロトタイプに基づいたヴァリエーションが多く含まれる。これらの彫刻は、有名なギリシア彫刻のオリジナルを手に入れられない多くのローマ人の収集欲を満たし、浴場や柱廊、劇場、公園などあらゆる都市空間を荘厳した。

（7）気韻生動

解答例：中国南齊の画家・謝赫が画論書『古画品録』のなかで説いた「画の六法」のひとつで、作画のうえで最も重んじられた。「気」とは万物を構成する要素であり、画家は描く対象の「気」を看取したうえで、それを画面に反映させる必要がある。さもないければ、描いた対象の生命や性格が画面にいきいきとあらわれることはない。のちに北宋の郭若虚が画家の人格が画面に反映することと規定したため、それが文人画を尊重するうえでの主張の中核となり、明清時代まで受け継がれることとなった。

（8）沈南蘋(沈銓)

解答例：清代の画家で、浙江省湖州府徳清県の人。清商の船に乗って享保16年(1731)から足掛け3年ほど長崎に滞在し、勾勒法と没骨法を併用した陰影の強い花鳥画の表現を日本に伝えた。直弟子は通詞職にあった熊代繡江(熊斐)ひとりであったが、その名

声を聞きつけた画家が全国から長崎に留学したため、その画風は南蘋派と呼ばれて全国的に広がることとなる。

問2 出題意図

博士課程において修士論文ないし博士論文を執筆し、アカデミック・キャリアを目指す者は、個別の美術作品をめぐる研究とともに、美術史の形成および展開を、時代の変化と共に包括的に捉える眼差しおよび知識を十分に備える必要がある。そうした準備の状況およびこれまでの研鑽の程度を知るため、何らかの時代様式をとりあげ、前後の時代との関係、具体的な視覚的・造形的創意を、具体的な作家および作品例とともに論じることが求められている。加えて、美術作品は空間および環境の中で生成され鑑賞されるものであるため、物理的空間性の高い建築、続いて彫刻、そして最も物理的空間性の低い（しかし造形的技法により錯覚上の空間を生成する）絵画、という順序で様式を説明することが最も標準的な美術史記述の流れであることも理解しているべきであろう。このように媒体を明示して問うた理由は、とくに学部生の段階では何らかの媒体（絵画等）に集中して視野が狭くなるため、どれほどの視野の広さがあるかを測るためである。